

貸借対照表

(2016年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	千円 432,615	流 動 負 債	千円 134,445
現金及び預金	224,108	買掛金	72,146
営業未収金	182,453	未払費用	12,945
前払費用	3,715	前受収益	22,180
繰延税金資産	16,908	未払税金	6,884
未収入金	5,305	賞与引当金	17,375
立替金	123	預り金	2,914
		負債合計	134,445
		純 資 産 の 部	
固 定 資 産	1,957	株 主 資 本	300,385
有形固定資産	0	資本金	100,000
建物	0	資本剰余金	16,065
		資本準備金	15,000
無形固定資産	353	その他資本剰余金	1,065
ソフトウェア	49	利益剰余金	184,319
電話加入権	304	利益準備金	14,000
投資その他の資産	1,603	その他利益剰余金	170,319
投資有価証券	840	繰越利益剰余金	170,319
繰延税金資産	141		
差入保証金	622	評価・換算差額等	△258
		その他有価証券評価差額金	△258
		純資産合計	300,127
資産合計	434,572	負債・純資産合計	434,572

(注) 記載金額は千円未満切り捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

(2015年4月1日から
2016年3月31日まで)

科 目	金 額
営 業 収 益	1,741,266 ^{千円}
営 業 原 価	1,497,488
営 業 総 利 益	243,778
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	185,714
営 業 利 益	58,063
営 業 外 収 益	561
営 業 外 費 用	—
経 常 利 益	58,624
特 別 利 益	—
特 別 損 失	—
税 引 前 当 期 純 利 益	58,624
法 人 税 及 び 住 民 税	12,656
事 業 税	3,860
法 人 税 等 調 整 額	6,314
当 期 純 利 益	35,794

(注) 記載金額は千円未満切り捨てて表示しております。

個 別 注 記 表

1. 重要な会計方針に関する注記

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券

 その他有価証券

 時価のあるもの…… 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

 時価のないもの…… 移動平均法による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

 ……定率法

 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

 建物

 3年

無形固定資産（リース資産を除く）

 ……定額法

 ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

リース資産……リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金…… 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金…… 賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当会計年度に負担すべき金額を計上しております。

(4) ヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法…………… 特例処理の要件を満たす金利スワップについて特例処理を採用しております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

・ヘッジ手段…………… 金利スワップ

・ヘッジ対象…………… 短期借入金

③ヘッジ方針…………… 固定金利を市場の実勢金利に合わせて変動化する場合や将来の金利上昇リスクをヘッジするために変動金利を固定化する目的で、「金利スワップ取引」を利用しているのみであり、投機目的の取引は行っておりません。

④ヘッジ有効性評価の方法… 特例処理によっているため、有効性の評価を省略しております。

(5) 消費税等の会計処理方法… 税抜方式を採用しております。

2. 貸借対照表に関する注記

(1) 支配株主に対する金銭債権・債務

支配株主に対する短期金銭債権	8,536 千円
支配株主に対する短期金銭債務	146 千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 3,813 千円

3. 損益計算書に関する注記

支配株主との取引高	営業収益	78,301 千円
	営業費用	6,669 千円

